

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
I 中等教育学校に適用される「教育課程の基準の特例」を活用し創立からの教育課程編成を検証し、生徒の学習目標、意欲に応えたカリキュラム開発を行う	○生徒の学習意欲を向上させるための授業展開を工夫する。	○学習状況調査、生徒による授業評価、補習・講習等の生徒の振り返りにより、生徒の学習意欲の向上が図られたか。	○学習状況調査及び模擬試験等の結果や生徒の振り返りを参考に授業内容を検討したことから、より学習意欲が向上する授業内容にできた。	○課題として、一部の生徒から「模擬試験の結果がわかりにくい」との声もあることから、模擬試験の結果の見方等をもう少し生徒にわかりやすく示し、学力の向上を図る。	(保護者) ○模擬試験結果の見方をわかりやすくする努力を継続してほしい。	(学校評価) ○学習状況調査、模擬試験等の結果や振り返りを参考に授業改善し、生徒の学習意欲を向上させることができた。 (改善方策等) ○模擬試験結果の見方を周知する工夫を行う。
	○授業における「言語活動の充実」を図るため、各教科で授業方法の研究を進める。	○各教科で工夫した授業が行われ、充実した生徒の言語活動の充実が図られたか。	○各教科で研究授業のテーマに沿った授業展開が行われ、研究協議等で今後の授業研究に役立っている。 ○授業における「言語活動の充実」については前期課程に比べ、後期課程では一部で知識偏重な科目も見られた。	○後期課程において、「教科の組織的な取組」として、思考力、判断力、表現力の育成を図る授業の工夫に一層努める。	(学校評議員・保護者) ○前期課程では実践されているが、後期課程ではアクティブラーニング・問う力などの実践が課題であるように見受けられる。	(学校評価) ○各教科で研究授業のテーマに沿った授業展開が行われ、研究協議等で今後の授業研究に役立っている。 (改善方策等) ○後期課程におけるアクティブ・ラーニング、問う力の育成をめざした授業の工夫を積極的に行う。
	○卒業（課題）研究・発表をさらに発展させるため、プレゼンテーション・スキル講座や小論文講座を充実させる。	○プレゼンテーション・スキル講座や小論文講座で学んだことを課題研究や卒業研究に活かすことができたか。	○4・5年次のプレゼンテーション・スキル講座で学んだことを生かし意欲的な課題研究ができた。内容・発表の仕方もよくできていた。また、各講座を活かすことができた。	○課題としては、発表者に適切な質問ができないことが多い。物事の本質に向き合い、「なぜ？」の問いを生徒自ら課し、自ら解決しようとする力の育成を各教科の日々の授業で実践する。	(学校評議員) ○ディベートやプレゼンテーションは、大学での学びや社会に出たときにも役立つ能力を育てるので、様々な場面で取り入れると良い。	(学校評価) ○プレゼンテーション・スキル講座や小論文講座を充実させることにより課題研究や卒業研究に活かされ成果となった。 (改善方策等) ○プレゼンテーション・スキル講座だけでなく、各教科や特別活動の中でも取り組めようなカリキュラムマネジメントを行う。
	○教育活動全般において、生徒の「問う力」及び「課題解決能力」の育成を図る。	○授業、発表活動や講演会等で、生徒が主体的に「問う」こと及び「課題解決」に向けて積極的に取り組めたか。	○前期課程の理科・社会では、夏休みの自由研究の発表を行い、プレゼンテーション能力を高めた。 ○実技教科では、教員が答えまですべてを一方的に教えるのではなく、生徒が主体的に考え答えを導く場面を作ることができた。 ○卒業研究の論文作成および発表を実施し、冊子にまとめた。	○課題としては、教員自らが、「問う力」の本質的な理解について未だ十分とはいえないところがあり、授業での仕掛けづくりが足りなかったことにある。 ○物事の本質に向き合い、「なぜ？」の問いを自ら課し、自ら解決しようとする生徒を育成するために、各教科の日々の授業で生徒が「根拠」に基づき説明や、自分の考えを述べることでできるよう、教員が適切な質問を意図的にを行い、効果的なタイミングで生徒同士の熟議等の機会の設定をする。	(保護者) ○問う力、質問力を育むためにはトレーニングが必要である。 (学校評議員) ○問う力のトレーニングを、学校行事でも取り入れることを考えた方がよい。	(学校評価) ○「問う力」及び「課題解決能力」の育成というテーマを職員全体理解のもと、1年間取り組めることができた。 (改善方策等) ○改めて「問う力」についての教員研修を行う。また、各教科だけでなく特別活動等でも「問う力」の育成をめざせるようにカリキュラムマネジメントに取り組む。
	○教育課程研究発表大会を開催し、創立から6年間の教育課程の成果をまとめ、次の6年間で意識した教育課程編成を検討する。	○教育課程発表大会を開催し、創立からの6年間の教育課程の成果をまとめることができたか。	○教育課程研究発表大会を開催し、創立からの6年間の教育課程について成果をまとめることができた。	○継続的に取り組むべきことと、早急な改善が必要であることを確認、整理して実行する。	(学校評議員) ○次の6年間の教育課程について、検討を進めてほしい。	(学校評価) ○6年間の成果をまとめた教育課程発表大会を開催できた。 (改善方策等) ○6年間の検証結果をもとに、次の6年間の教育課程について企画会議等で早急に検討を始める。
	○国の動向を踏まえた教育課程の研究ができたか。	○文部科学省の提唱する新しい英語教育に関する研究や、授業時間に関する新しい教育課程の研究に着手した。	○国の動向や授業時間確保の観点から、今後教育課程の検討が急務である。	(学校評議員) ○大学入試制度改革を見据えた指導をお願いしたい。	(学校評価) ○授業時間に関する新しい教育課程の研究をすすめることができた。平成28年度はそれを実践する時期である。 (改善方策等) ○国の動向を踏まえ大学入試制度改革に対応したアクティブ・ラーニング、問う力、課題解決能力の育成をめざした授業研究に取り組む。	
II 生徒一人ひとりの特性や抱える課題を見極め、問題解決に向け、保護者、学年、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーや外部機関等と連携した生徒支援体制を確立する	○スチューデント・メンター制度による活動を活性化し、後期生が前期生を助け、導くことにより、相互に成長できるよう支援する。	○スチューデント・メンターの活動内容や活動機会の充実を図ることができたか。	○夏休みにワークショップを企画運営するなど、自分達でよりよい活動の仕方を考えて活動していた。 ○次年度のスチューデント・メンター養成講座の受講人数が、一昨年の4人から19人に増加した。	○課題としては、スチューデント・メンターの活動があまり明確でなかったことである。今後は育成したい能力を明確にし、そのための取組を進めていく。また、生徒の援助能力を補強できるような活動も検討し実践する。	(学校評議員) ○スチューデントメンターの活性化を進めてほしい。	(学校評価) ○スチューデント・メンターの活動内容や活動機会の充実を図ることができた。 (改善方策等) ○育成したい生徒像を踏まえたスチューデントメンターの役割や活動について内外に発信するとともに、活性化を図る。
	○教育相談等の各種の面談を通じ、生徒一人ひとりの状況を把握し、適切な生徒支援に努める。また、保護者やスクールカウンセラーとの連携を密にし、必要に応じて外部機関と連携し、生徒・保護者を支援する。	○生徒が抱える課題の早期発見に努め、適切にその課題に対応することができたか。	○支援チームを発足させ、学年や養護教諭、スクールカウンセラーと密に連絡を取り合い、昨年度に比べて生徒が抱える課題を発見し、適切に対応するようになったが、迅速な対応と改善に向けては、未だ不十分のところがある。	○担任や学年任せになってしまうケースが多く、なかなか的確で迅速な対応ができなかった。支援チームの体制を見直し、問題が長期化しないよう、養護教諭やスクールカウンセラー、外部機関と積極的に連携を取り、生徒の困り感の改善に努める。	(保護者) ○教育相談の体制を強化してほしい。	(学校評価) ○支援チームを発足できた。しかし、その機能についてはまだ不十分であり改善の余地がある。 (改善方策等) ○迅速で早期に対応できる組織づくりを研究し、支援チームの機能を強化する。
	○定期的に職員間で生徒情報を共有する。また、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、ケース会議等を活用して問題の早期発見とその適切な対応に努める。	○定期的に生徒に関する情報を共有する機会を持ち、問題の早期発見と対応に努めることができたか。	○生徒情報共有会を定期的に行い、職員間の生徒情報の共有化を行った。また、支援チームを発足し、共有会で得た生徒情報を元に、縦断的に、よりよい支援のあり方を検討し、実行した。	○学校不適応の生徒に対する継続した支援が必要である。 ○課題としては、家庭連絡、外部機関との連携、また、数回にわたる進路の確認など担任の負担の大きさが挙げられる。支援チームがより効率的に動けるように工夫し、実践する。	(学校評議員) ○ケース会議や支援チームの効率化を進めてほしい。	(学校評価) ○生徒情報共有会の定期的開催、支援チームの発足は評価できるが、その効果的な機能については課題である。 (改善方策等) ○ケース会議、生徒情報共有会、支援チームの役割を再度確認し、効果的な生徒支援組織を構築する。
	○各種アンケートや学年集会及びLHRでの指導を通して、生徒の規範意識や人権尊重の意識を向上を図る。	○生徒アンケートや集会での指導を通し、生徒の規範意識や人権尊重の意識を向上させることができたか。	○集会やLHRでの指導やアンケートを通し、生徒の規範意識や人権尊重の意識の向上を図った。	○一部に、規範意識に欠ける行動を取る生徒や、悪ふざけで人をからかうような行動を取る生徒がいる。人権の尊重、いじめの尊重を育む教育に粘り強く取り組む。	(学校評議員) ○学校評価アンケートによると、「校則を守っているか」の項目の達成度が低い。そういった生徒には、守ってもらう側の役割をやってもらうと良いのではないかと。	(学校評価) ○集会や様々な場面での指導の成果は一定程度認められるが、規範意識の徹底等一部課題が残った。 (改善方策等) ○規範意識を育てる指導方法を工夫する。また、各教科を含め、人権尊重、命の尊重を育む取組みを引き続き粘り強く行う。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
Ⅲ 学習指導および効果的な授業改善と研究授業の充実を図り、学力向上に向けた生徒の目的意識を醸成する。また、生徒の第一志望の進路実現を図る	○知識理解を深め、得た知識を活用するための工夫等について、教科で設定したテーマを踏まえた授業研究を年間通じて実践する。	○教科で設定したテーマを踏まえた授業研究が、年間を通して計画的に実施できたか。	○テーマにそった研究授業を通して、教員間の意見交換を行いながらより良い授業が行えるように努めた。 ○教科ごとに分析会を実施し、課題を共有した。	○課題として、「基本的な知識理解を生かして、どのように表現活動を豊かにするか」の具体策が共有されていないことが挙げられる。 ○学校全体での共通のテーマを設定し、それに対する教科ごとの具体的な手立てを工夫し、年間を通じてそれを意識した授業展開に取り組む。	(学校評議員) ○職員全員が研究授業を行っているのは良い。	(学校評価) ○テーマにそった研究授業を学校全体で行い、分析会を実施することができた。各教科の具体的な取組について共通理解を図ることが課題である。 (改善方策等) ○学習指導要領改訂を意識した「問う力」を研究テーマとし、研究授業を実施する。共有フォルダ等を活用し、実践を共有する。
	○教科科目ごとに担当者間の連携を密にし、生徒の基礎学力・応用力の着実な定着を目指す。	○教科会議や習熟度別の担当者間の打ち合わせ等により、生徒の学習状況の共有化が図れたか。	○前期課程からの丁寧な積み上げに基づき、生徒の学力は向上している。 ○小集団学習や習熟度別学習の担当者及び同一教科・科目担当者での打ち合わせ等により、学習状況の共通化が図られた	○課題として、習熟度別クラスごとの学習目標が明確に設定されていないことがあった。個々の生徒の目標実現に向けた支援体制を充実させることを継続する。	(学校評議員) ○来年度からの習熟度別クラスの拡充は評価できる。 ○習熟度別クラスごとの学習目標を明確にしてほしい。	(学校評価) ○習熟度別の担当者打ち合わせにより、学習状況の共有化が図られ、生徒の知識の構築を図ることができた。 (改善方策等) ○習熟度別クラスを拡充するとともに、そのクラスごとの学習目標を年度当初に設定する。
	○模試や定期テスト等の振り返りを十分に扱い、次の学習に活かすよう、生徒の自己マネジメント能力を高める。	○模試や定期テスト等の結果を有効に活用し、個々の生徒への支援を適切に設定できたか。	○試験結果を踏まえ、個々の生徒に適した学習目標を設定することができた。 ○模試当日に振り返りの時間を設定し、各自が学習達成状況を把握できた。	○課題として、模試の分析資料の蓄積が十分でないことが挙げられる。 ○振り返り方法をさらに検討を重ね、進路指導体制の充実を図る。	(保護者) ○模試試験をその日のうちに振り返ることは、意味のあることだと思う。	(学校評価) ○定期テストや模試試験を活用し、結果を踏まえ、個々の生徒に適した学習目標を設定し学習意欲を喚起できた。 (改善方策等) ○模試試験当日の振り返り方法の工夫を図る。
	○各種講習(土曜講習・夏期講習・課外講習等)を通して、生徒の第一志望実現のためのサポートを行う。	○各種の講習が、様々な生徒の状況に応じた講座を計画的に配置することができたか。	○前年度は、各期の土曜講習講座数が変動していたが、通年で12～15講座が開講され効果的な指導が実施できた。 ○夏期講習は、前年度より講座数が73から76と微増し、1人当たりの受講数が前期で1.6、後期で2.1と0.1ポイント上昇した。	○生徒のニーズに合わせ今後も充実を図り、継続して実施する。	(学校評議員) ○土曜講習が平日の放課後に移行しつつあるようだが、生徒のニーズにかなったものだと思う。	(学校評価) ○各種講習を効果的に展開できた。特に、夏期講習については、講座数を増やし生徒の進路希望実現をサポートできた。 (改善方策等) ○土曜講習については、生徒のニーズを踏まえた形で実施する。
	○進路相談室や自習室など、生徒の進路学習環境の整備を進め、1期生の進路状況分析結果も踏まえた進路指導体制を確立する。	○進路相談室、自習室の利用状況を反映した整備拡充が図れたか。また、進路小委員会による進路相談体制の充実が図れたか。	○進路相談室の整備、進路小委員会の実施等により生徒への進路指導の充実が図れた。	○課題としては、進路相談室や自習室の5年次生の利用率が低いところがある。5年次生に対する進路指導や学習指導を強化し、意識の向上に努める。 ○進路相談室や自習室のより有効な利用について、さらに検討を重ね、夏休業前には改善策を提示する	(保護者) ○5年次生の進路に対する意識をどのように高めていくかを検討してほしい。	(学校評価) ○進路指導室の整備、充実を図ることができたが、自習室も含め利用率が低いことが課題である。また、5年次生に対する進路指導の充実が課題である。 (改善方策等) ○5年次生の進路希望実現への意識向上を図るため、夏休業前に自習室、進路指導室についての利用効果について周知する。
Ⅳ 多彩な体験活動を通じて、生徒が自らの将来像を展望することを援助し、自立した社会観、リーダー性のある生徒を育成する	○進路講演会、大学模擬授業、分野別進路説明会、大学キャンパスツアー等、生徒の希望進路に対応した多彩な学習機会を設ける。	○進路に対応した各種の学習機会に、生徒が積極的に参加できたか。	○5回の講演会や5人の大学教員による大学模擬授業などの学習機会を多く設定でき、生徒は意欲的に参加した	○オープンキャンパスとキャンパスツアーは、目的が重複するので、オープンキャンパスに一体化する。研究室訪問は、進路実現に向けての意識喚起を図る上で有意義なものと考えられるので、生徒の参加を呼びかけていく。 ○分野別職業紹介講座において、講師に講演のねらいを伝え切れていなかったことが課題である。事前に連絡を十分に取り、ねらいを明確にしたコーディネートを徹底する。	(保護者) ○4年次対象の分野別説明会について、生徒の満足度を高めるために、来年度は事前に生徒の希望を把握し、講師としっかり打ち合わせするようにしてほしい。	(学校評価) ○講演会や大学模擬授業などの学習機会を多く設定し、生徒が意欲的に参加できた。一方で、分野別職業紹介講座において、生徒のニーズを反映したものであったかということに課題が残った。 (改善方策等) ○分野別職業紹介講座について、生徒のニーズを把握し、講師との連絡を密にとることで有意義な取組とするよう努める。
	○体験活動を生徒が主体的に企画・運営し、社会に対する見識を深め、社会生活に必要な能力や態度を育てる。	○翠星祭、合唱コンクール等の活動を生徒が主体的に企画・運営し、実施できたか。	○翠星祭、合唱コンクール等の活動を生徒が年間を通じて、実行委員会が牽引役となり、主体的に企画・運営し、実施することができた。 ○体験活動の企画・運営が成功し、生徒は社会に対する興味・関心を深めることができた。	○実行委員会の生徒は主体的に企画運営しているが、全体生徒にまで浸透しているとは言えない側面がある。行事の目的を明確にし、全生徒が主体的に運営していくよう指導を徹底する。	(保護者) ○生徒会がとても機能していることがわかった。	(学校評価) ○生徒主体の行事運営はできている。全生徒が主体的に行事運営に関われるようにすることが課題である。 (改善方策等) 生徒一人ひとりに役割を持たせる等の工夫により全生徒が行事運営に関われる体制を構築する。
	○学校行事、委員会活動、部活動などを通して、自立した社会観、リーダー性のある生徒の育成を図る。	○学校行事、委員会活動、部活動等で、生徒が社会性を意識し主体的に活動し、リーダー性を発揮する場面を設定できたか。	○学校行事や委員会活動、部活動等を通じて、上級生が下級生の指導をしたり、各委員会等の意見をまとめ目標達成のため自ら範を示すなど、リーダーシップを発揮する場面が多々見られた。	○部活動においては、練習時間の確保が今後の検討課題。また、3年生のリーダーシップをどのように発揮させるかが今後の課題である。	(保護者) ○短い時間で効果的に活動できる仕組みを考えてほしい。	(学校評価) ○上級生が下級生を指導したり、部活動や委員会等で上級生がリーダーシップを発揮する機会を多く作ることができた。部活動の活動時間については課題である。 (改善方策等) ○部活動において、限られた時間内で効果的に活動できる方策をさらに研究する。
	○「かながわ探究Ⅰ～Ⅲ」を継続実施し、生徒が自分の将来像を展望するための機会を提供する。特に、かながわ探究Ⅲの内容を一層充実させる。	○体験活動を効果的に実施し、社会に対する見識を深め、社会生活に必要な能力や態度を育成できたか。	○実験・観察などの活動に対して積極性が増し、自主的に学ぶようとする態度があった。 ○学年があがるごとに訪問する職場に関する調べ学習を綿密に行い、積極的に質問をするなど生徒たちの取組に変化が見られ、自ら積極的にコミュニケーションを図るなどの社会性の向上が見られた。	○3年の「かながわ探究Ⅲ」で企業訪問をし、充実した報告書をまとめることができたが、職業観を身につけることについては、十分とは言えない側面がある。訪問企業を絞り、事前学習をさらに深める方法を検討し実践する。	(学校評議員) ○自分が生きてきた中で得た興味・関心に気付かせることも、職業観を身につける大切なプロセスである。	(学校評価) ○「かながわ探究Ⅰ～Ⅲ」をそれぞれの場面で効果的に実施することができたが、3年の職業観の育成については課題が残った。 (改善方策等) ○「かながわ探究Ⅰ～Ⅲ」をさらに系統立てて実施し、生徒の自己実現の意識を育成したい。
	○オリエンテーション合宿、イングリッシュキャンプ、東京校外学習、国内・海外研修旅行等の活動を効果的に運営・実施する。	○生徒の自立を促す活動を効果的に企画・運営し、体験報告書等による成果を検証できたか。	○体験報告書により、実施成果を把握することができた。	○職員が行事の全体像や意味を把握し、企画、運営に全員が協力して当たることが未だ不十分ことから、それぞれのねらいをもう一度再確認し、発達段階に応じた6年間にわたる学びの体系化を明確にする。	(学校評議員) ○学校全体で6年間の行事を理解することが望ましい。 (保護者) ○海外語学研修のプログラムはよくできている。学校内外にさらにPRした方がよい。	(学校評価) ○それぞれの行事において、生徒の主体的な取組が見られ成果が得られた。一方で、開校時から職員も変わり6年間を見据えた行事であることを再確認する必要がある。 (改善方策等) ○6年間の行事のそれぞれのねらいについて、再確認する機会を設ける。
○PTAと連携し、保護者によるキャリアプランニング講座を企画・実施する。	○保護者のキャリアプランニング講座を実施できたか。	○PTAと連携し、今年度は保護者による職業紹介を広報誌に掲載できた。	○保護者のキャリアプランニング講座は、生徒にとって有意義なものとなるので、生徒からの職業アンケートを参考にしながら、保護者による人材活用を通じたキャリア教育を実施する。	(保護者) ○広報誌の保護者による職業紹介はよくできた。	(学校評価) ○PTAと連携しキャリアプランニングに関する記事を広報誌に掲載することができた。保護者を活用したキャリア教育講座の実施については課題が残った。 (改善方策等) ○キャリアプランニング講座の実施について検討する。	

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
V 地域への学校情報の提供を充実させる。また、地域との交流活動に積極的に参画する	○地域と連携した防災への対応準備を行う。	○地域自治会と避難所運営等に関する課題を協議できたか。	○地域自治会と避難所運営等に関する課題についての確認ができた。	○防災マニュアル記載の避難運営の項目に関してさらに検討を進める。 ○防災用品の充実および防災倉庫の整備をさらにすすめる。 ○歩行大会のPTAによる大鍋での豚汁提供を通じて、地域防災の学習の場とするなど防災意識の向上に努める。	(保護者) ○歩行大会後の大鍋での豚汁提供は、地域防災の学習の場となるので、この活動を通して防災意識の向上に努めてほしい。	(学校評価) ○地域自治会と避難所運営等に関する課題を協議できた。生徒一人ひとりの防災に対する意識の向上を図りたい。 (改善方策等) ○歩行大会での大鍋による豚汁提供等を通して、防災意識の向上を図る。
	○学校紹介や施設見学の方法・内容の改善を計画・実施する。	○代表生徒が主体的に学校紹介や案内を実施できたか。	○生徒会役員や1年生の代表生徒が主体的に学校紹介、施設見学を実施できた。	○生徒主体による学校紹介は引き続き継続していく。	(保護者) ○代表生徒は主体的に活動できていた。	(学校評価) ○生徒主体の学校紹介は好評であった。 (改善方策等) ○学校紹介は生徒が成長する場でもあるので、多くの生徒に関わりを持たせたい。
	○地域貢献活動の実施計画を早めに決定し、学校周辺の清掃活動を行うとともに、ボランティア活動に積極的に参加する。	○地域貢献・ボランティア活動の活動内容を充実させ、安全面に配慮した計画が実施できたか。	○大原小学校との連携等、地域貢献・ボランティア活動の内容を充実、安全面に配慮した形で計画・実施できた。	○地域清掃等の時期やエリアについて、今後検討する。	(学校評議員) ○中高生が地域を綺麗にしてくれていることが、地域住民の環境美化意識を高めることにもなるので助かっている。	(学校評価) ○地域と連携し清掃活動を充実させることができた。 (改善方策等) ○地域清掃の時期やエリアについては、地域と連携を取りながら検討していきたい。
	○平塚ろう学校との交流の内容を一層充実させ、両校の行事(文化祭)の訪問・授業参観を継続実施する。また、盲学校との連携も図る。	○平塚ろう学校との交流の内容を充実し、両校の行事の訪問・授業参観を継続実施できたか。また、盲学校への訪問等の取組もできたか。	○社会協議会による手話講話をはじめ、平塚ろう学校との行事や授業参観は参加した生徒からはとても好評であった。平塚盲学校との連携は3月末に実施予定である。	○平塚ろう学校・盲学校との連携は今後も継続する。	(学校評議員) ○交流活動の成果が全生徒に還元されるとうい。	(学校評価) ○平塚ろう学校・盲学校との交流の内容を充実することができた。 (改善方策等) ○インクルーシブ教育の取組としてさらに継続していく。
	○学校ホームページや校門外掲示板板を利用し、学校情報の広報をさらに充実させる。	○ホームページや校門外掲示板をタイムリーに更新し、地域に学校の情報を発信することができたか。	○ホームページや校門外掲示板をタイムリーに更新し、地域に学校の情報を発信することができた。	○今後も広報活動を積極的に行い、学校の取組を発信する。	(学校評議員) ○校門外の掲示板は、ホームページを見ない方に対する効果的な情報発信のツールなので、ぜひ続けてほしい。	(学校評価) ○HPの更新や地域情報誌への掲載など、学校の取組を発信することができた。 (改善方策等) ○HPのさらなる充実と校門外の掲示板の効果的な活用を検討していきたい。
	○効率的かつ効果的な学校説明会を実施する。	○新しい形態の学校説明会を効果的に実施することができたか。	○市民センターの使用が不可能であったため、夏の学校説明会は例年通りの形式で行われた。 ○秋の学校説明会における「生徒の質問コーナー」は、受検生の保護者に好評であった ○生徒が主体的に学校紹介、施設見学を実施できた。	○2日日程の夏・秋の学校説明会を1日日程にした場合の形式が継続課題として残っている。 ○「生徒の質問コーナー」は、今後も継続していく。	(学校評議員) ○学校説明会の質問コーナーは、評判がよいので、継続してほしい。	(学校評価) ○生徒主体の学校説明会を開催することができた。 (改善方策等) ○学校説明会の発展的改善に向けて早急に検討する。
	○学校創立からの6年間の教育活動の記録となる研究紀要を発行するとともに、教育課程研究発表大会を企画・実施する。	○研究紀要を発行するとともに、教育課程研究発表大会を成功させることができたか。	○6年間の完成を迎えた記念事業の一環として、教育課程研究発表大会を開催し、中高一貫校としてのこれまでの取組の成果を県内外に報告発表した。その際、研究紀要を発行配付した。	○セカンドステージとしての課題は、不易と流行をしっかりと見据え、質の高い教育を提供できるかにかかっている。そのためにも年度ごとの取組の成果と課題等を研究紀要として発行できるよう努める。	(保護者) ○研究発表大会は、学校がどういう取組を行っているかが分かり良かった。地域情報誌に載るなど学校のPRにもなった。	(学校評価) ○研究発表大会の開催と研究紀要の発行は、本校の取組を内外に発信することができ大きな成果である。 (改善方策等) ○研究発表・研究紀要は方法等を検討しつつ継続して実施していく。
VI 事故・不祥事防止を徹底する。また、生徒の交通安全意識、日常の防災意識や災害・緊急時の対応力の育成を図る	○事故防止、不祥事防止徹底のため、教職員の業務の合理化を一層推進する。	○事故・不祥事ゼロプログラムを計画通り実施できたか。	○事故・不祥事ゼロプログラムを計画通り実施できた。 ○定期試験や成績処理、調査書作成に関し、複数の担当で確認することで防止につながっている。	○次年度は調査書作成時期が変わるため、効率的な作成と点検が確実に行われるようにスケジュールを作成する必要がある。また、定期試験の作問、採点、監督等については、入学決定検査と同様の緊張感を持った対応を徹底する必要がある。 ○職員の交通事故の防止をさらに徹底する必要がある。	(保護者) ○先生方は職員相互の声かけにより、事故防止に取り組んでいる姿が伺える。 ○保護者と先生方が協力して交通安全に取り組んでいきたい。	(学校評価) ○年間を通して事故防止に努めることができた。次年度についても入学者選抜を始め事故防止の徹底を図りたい。 (改善方策等) ○早期に調査書点検のスケジュールを作成したい。
	○場面場面で相互啓発活動を継続し、教職員の「意識」に呼びかけ、全体で業務環境の検討・整備を行う。	○業務環境の検討・整備を進めることができたか。	○業務環境の検討・整備を進めることができた。 ○各担当者が目配り気配りを欠かさず、先回りして企画・運営したので、滞りなく業務を進めることができた。	○業務が多岐に渡っているため、年間を通して、業務全体を見渡すことが必要になる。	(保護者) ○先生方は職員相互の声かけにより、業務に取り組んでいる姿が伺える。	(学校評価) ○年間を通して滞りなく業務を遂行することができたが、職員の業務過多が課題である。 (改善方策等) ○効率的かつ効果的な業務の見直しをしていきたい。
	○防災・減災活動では、最新の行動マニュアルを活用して、「命を守る」ための簡潔な行動ができる体制を確立する。	○最新の学校防災活動マニュアルに更新し、防災意識や対応力の育成ができたか。	○最新の学校防災活動マニュアルに更新し、防災意識や対応力の育成ができた。	○学校防災マニュアルのスリム化を進め、防災時の迅速な対応ができるようにしていく。	(学校評議員) ○地震災害について、どのように生徒を誘導し保護者となげけるかを考えてほしい。	(学校評価) ○最新の学校防災マニュアルを作成することができた。 (改善方策等) ○さらに学校防災マニュアルを改善し、スリム化かつ分かりやすいものを作成する。
教育目標・教育方針・中長期的な方針など教育理念 : 3つのL ～次世代のリーダーを目指して～ 生きる(Live) ～深い洞察と鋭い感性～ 慈しむ(Love) ～高い志と豊かな人間性～ 学ぶ(Learn) ～幅広い教養と光る知性～						